

# 『横浜マラソン2022』事業報告



2023年1月24日

横浜マラソン組織委員会

## 「横浜マラソン2022」概要

### 名称

**横浜マラソン2022** (英文名: YOKOHAMA MARATHON 2022)

### 開催趣旨

スポーツ振興や健康増進に寄与し、経済波及効果やシティーセールス効果が期待できる「する、みる、ささえる」すべての人が楽しめる大会を目指します。

### 開催日

**2022年(令和4年)10月30日(日)**

### 主催

#### 横浜マラソン組織委員会

横浜市、神奈川県、(公財)横浜市スポーツ協会、(一社)横浜市陸上競技協会  
横浜市スポーツ推進委員連絡協議会、横浜市町内会連合会、神奈川県走友会連盟  
(公財)神奈川県スポーツ協会、(一財)神奈川県陸上競技協会、神奈川県実業団陸上競技連盟  
神奈川県スポーツ推進委員連合会、(一社)横浜青年会議所、(公財)よこはまユース  
(社福)横浜市リハビリテーション事業団、(公社)横浜市身体障害者団体連合会  
横浜商工会議所、(一社)横浜市商店街総連合会、(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー  
(一社)横浜市医師会、横浜港運協会、神奈川倉庫協会、(一社)横浜みなとみらい21  
(株)横浜国際平和会議場、山下公園通り会、横浜エフエム放送(株)  
(株)アール・エフ・ラジオ日本、神奈川新聞社、(株)テレビ神奈川、(一社)神奈川県バス協会  
(一社)神奈川県タクシー協会、(一社)神奈川県トラック協会

### プロデューサー

坂本 雄次

### 主管

一般社団法人横浜市陸上競技協会

### 協賛

#### オフィシャルパートナー

E N E O S 株式会社、株式会社ローソン、株式会社アマダ、日産自動車株式会社  
株式会社杉孝グループホールディングス、株式会社京三製作所  
日清オイリオグループ株式会社、第一生命保険株式会社、レイズネクスト株式会社  
カシオ計算機株式会社、東急グループ、アクエリアス、株式会社 J E P L A N、NTT東日本  
リストグループ、株式会社ダスキン、株式会社フォトクリエイト  
新港ふ頭客船ターミナル株式会社、三菱地所グループ

#### 横浜サポーター

株式会社横浜銀行、株式会社 J T B、古河電池株式会社、富士通 J a p a n 株式会社  
株式会社両備システムズ、株式会社ありあけ、フィード・ワン株式会社、  
株式会社ネオジャパン、N P O 法人おれんじハウス、横浜バイクオーター、株式会社キタムラ  
資生堂グローバルイノベーションセンター (S / P A R K)、フクダ電子株式会社、  
株式会社城山、プライムケア東京株式会社、フレッシュ・デルモンテ・ジャパン株式会社、  
株式会社ミツハシ、株式会社日新  
〈ジュニアサポーター〉 よこはまコスモワールド

## 運営協力

横浜市スポーツ推進委員連絡協議会

## 協 力

首都高速道路株式会社、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社  
 パシフィック横浜、相鉄グループ、京浜急行電鉄株式会社、横浜高速鉄道株式会社  
 東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社、クイーンズスクエア横浜、（一社）横浜みなとみらい21  
 ハクビ京都きもの学院、（一社）横浜南部市場管理協会、  
 国立研究開発法人海洋研究開発機構、日本体育大学、横浜市交通局、横浜市消防局  
 横浜市水道局、(公財)横浜市緑の協会、ヨコハマSDGsデザインセンター

## 後 援

スポーツ庁、観光庁、朝日新聞社、(公財)日本スポーツ協会

## 募集人数

種 目		募集人数	
フルマラソン	女性ランナー優先枠	6,000人	
	地元優先枠	横浜市民枠	2,000人
		神奈川県民枠	1,000人
	一般枠	12,600人	
	ふるさと納税枠	500人	
	チャリティ枠	400人	
	チャレンジ枠	500人	
みなとみらい7kmラン	2,000人		
車いすチャレンジ	100人		
オンラインマラソン	3,000人		
合計	28,100人		

## 申込結果

先行優先枠		一般公募枠			
種 目	申込人数	種 目	申込人数	倍 率	
フルマラソン	8,817人	女性ランナー優先枠	2,015人	0.57※1	
		地元優先枠	横浜市民枠	3,473人	2.92※1
			神奈川県民枠	2,233人	3.80※1
車いすチャレンジ	31人	フルマラソン	一般枠	10,230人	1.37※1 ※2 1.14※3
			ふるさと納税枠	56人	—
			チャリティ枠	82人	—
			チャレンジ枠	58人	—
			みなとみらい7kmラン	4,635人	2.32
車いすチャレンジ	44人	0.64※4			
オンラインマラソン	618人	—			

「横浜マラソン2021」エントリー者対象

※1 (フルマラソン募集人数21,600人 - 先行優先枠8,817人 = 12,783人) を当初の募集人数別の割合で  
 案分し、各枠の募集人数としたうえで倍率を計算

※2 地元優先枠落選者は、自動的に一般枠の抽選に移行

※3 女性ランナー優先枠の残枠数を含んで計算した倍率

※4 募集人数100人から先行優先枠31人を除いて倍率を計算

## 競技結果等

### ランナー出走人数等

種目	出走人数	完走人数	完走率	備考
フルマラソン	17,879人	16,466人	92.1%	2019大会は93.7%
みなとみらい7kmラン	3,893人	3,874人	99.5%	
車いすチャレンジ	67人	67人	100%	
合計	21,839人	20,407人	93.4%	

### ランナーの男女割合

項目	割合 ( )は2019大会
男性	78.0% (75.2%)
女性	22.0% (24.8%)

### ボランティア参加人数

項目	人数
2022大会	5,863人
2019大会	8,928人

### 沿道応援者数

項目	人数
2022大会	約43万人
2019大会	約68万8千人



## 横浜マラソン ONLINE EXPO 2022



### 横浜マラソン ONLINE EXPO 2022

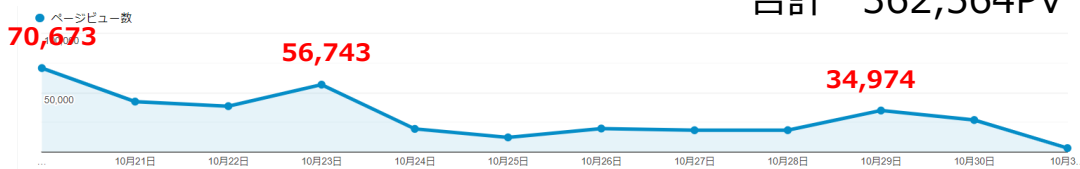
開催期間：2022年10月20日（木）～10月31日（月）

オンラインの特性を活かし、横浜マラソン初の試みとなる、オンラインによるランナー受付を実施するとともに、コース紹介動画や、横浜マラソンTVのアーカイブ配信などを行いました。

また、EXPO内を巡り、スタンプを集める「オンラインスタンプラリー」を開催し、来場者と大会オフィシャルパートナーや横浜サポーター、関係団体がつながりを持つ取り組みを行いました。

ページ	ページビュー数
トップページ	195,794
パートナー紹介	59,739
コース紹介	21,142
横浜マラソンTV	5,488
直前トレーニング	4,489

合計 362,564PV



### 主なコンテンツ

#### ランナー受付

YOKOHAMA MARATHON 2022

メール等で受け取ったナンバーカード番号・パスワードを入力してください

ナンバーカード番号

パスワード

受付

#### 横浜マラソンTV



#### 直前トレーニング



#### オンラインスタンプラリー

スタンプを集めてステキな賞品をもらおう！

開催中!

## オンラインスタンプラリー

横浜マラソンを応援するパートナー・サポーターの応援動画、応援写真を閲覧するとスタンプがもらえます！

スタンプが10個集まるごとにルーレット！ステキな賞品がもらえるチャンスです！

#### コース紹介動画



## 「横浜マラソン2022」公式パーティー

公式パーティーを開催し、大会パートナー各社様への感謝状の贈呈等を行いました。

開催日	2022年10月28日(金) 18:30~20:00
会場	横浜ベイホテル東急 クイーンズグランドボールルーム
参加者	オフィシャルパートナー・横浜サポーター各社、大会関係者ほか 約130人



## 横浜マラソンフェスタ2022

フィニッシュエリアのパシフィコ横浜臨港パークで、ランナーや観客に楽しんでもらえるブースを設置しました。

開催日時	2022年10月30日(日) 9:00~15:30
開催場所	臨港パーク 芝生広場
出展社数	14



## オンラインマラソン

G P S 走行機能を搭載したスマートフォンのアプリを利用して、期間内に任意コースを42.195km走っていただく種目です。

応援メッセージやラッキー給食などの獲得コンテンツを用意しました。

開催期間	2022年10月30日(日) ~ 11月13日(日)
参加者数	618人
完走者数	505人



## 「横浜マラソン2022」関連イベント

大会当日以外にも大会関連イベントとして、マラソンが身近に感じられ、スポーツをすることの楽しさ・充実感が得られる取組や、環境への意識が高められる取組を実施しました。

### GOGO！新緑 親子ラン in 三ツ沢公園

開催日	2022年5月5日(木・祝)
会場	三ツ沢公園陸上競技場、横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター
内容	ランニングの時間（「走り」の基本を学ぶ、力強い「走り」を身につける など） 野外クッキングの時間（飯ごうでの蒸しケーキ作り、マシュマロ焼き）
参加者	小学生と保護者 50組 100人
ゲスト	二宮美幸 【第一生命グループ女子陸上競技部OG】



### 目指せ完走！ビギナーランナーサポートレッスン

開催日	2022年10月9日(日)
会場	横浜市立みなとみらい本町小学校、みなとみらい周辺
内容	コンディショニング（横浜市スポーツ協会オリジナルプログラム「YSA ジョイウェルコンセプト」体験） ランニング（ペース走 ＊スタート、フィニッシュ会場及びコース一部の試走 など） コース攻略（コース紹介動画を視聴しながらコース解説）
参加者	横浜マラソン2022エントリーランナー 62人



### 女性ランナー限定！マラソン完走サポートレッスンwith SHISEIDO S/PARK

開催日	2022年10月15日(土)
会場	資生堂グローバルイノベーションセンター S/PARK
内容	トーク「本番まで2週間 今学んで、即実践！マラソン完走メソッド」「長く、楽しく、若々しく、ランニングを続けるために」 エクササイズ 「今、覚えてレースに活かそう！弘山晴美さん直伝トレーニング」 コース攻略（コース紹介動画を視聴しながらコース解説）
参加者	横浜マラソン2022エントリーランナー（女性） 32人
特別講師	弘山晴美 【株式会社エポーリュ代表取締役、資生堂ランニングクラブOG】 白土真紀（資生堂みらい開発研究所 S/PARK Studio マネージャー）



### スポGOMI@みなとみらい

開催日	2022年11月13日(日)
会場	横浜市立みなとみらい本町小学校、みなとみらい周辺
内容	1チーム3～5人で力を合わせて、90分間の制限時間内に拾ったごみの「種類(質)」と「量」をポイントで競い合う
参加者	10組35人



## SDGs

3年ぶりのフルマラソンをはじめとしたリアル大会開催と循環する大会づくりを目指し、

「RE-START YOKOHAMA MARATHON」をスローガンに、サステナブルな大会を目指した取組を推進しました。

### 服のリサイクルシステムの構築



参加賞Tシャツは「服から服をつくる®」BRING®と連携し、不要となったポリエステル繊維の衣類から独自のポリエステルリサイクル技術「BRING Technology®」により再生された「BRING Material®」を一部使用した「BLANK」を採用しました。  
本取組によって、おおよそ2.9tのCO<sub>2</sub>排出量を削減しました。



### 再生エネルギーの活用



大会運営における再生可能エネルギー活用の取組として、10月30日の横浜マラソン会場における使用電力量及び大会組織委員会事務局での年間使用電力量に相当する20,000kwhのグリーン電力証書を購入しました。  
これにより、おおよそ9.1tのCO<sub>2</sub>排出量を削減しました。



### リサイクルに向けた実証実験等



ヨコハマSDGsデザインセンターのプロジェクトパートナーとして、デザインセンター会員と連携し、大会時に発生するゴミの資源化を目指した紙コップ回収の実証実験を実施しました。また、株式会社JEPLANと連携し、回収したペットボトルからペットボトルへの水平リサイクルを試行しました。

横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たち)は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

### 電気自動車の活用



第1回大会より、先導車両には日産自動車株式会社の提供により排出ガスゼロの電気自動車（EV）がランナーを誘導しました。環境に優しいEVの採用により、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努め、よりクリーンで、より安全な大会運営に寄与しました。



### 環境に配慮した制作物



植物由来素材を使用した参加者の手荷物預け袋や、ボランティアの活動袋の製作及び FSC認証紙を活用した各種制作物の製作など、環境に配慮した取組を展開しました。

### 車いすチャレンジの設定



伴走者とともに日常用車いすで参加できる「車いすチャレンジ」種目を設定し、すべてのランナーが参加しやすい大会づくりに取り組みました。



### 各種イベントの実施



大会当日以外にも大会関連イベントとして、マラソンが身近に感じられ、スポーツをすることの楽しさ・充実感が得られる取組や、環境への意識が高められる取組を実施しました。



## 「横浜マラソン2022」大会コース

【フルマラソン (42.195 km)】



「横浜マラソン2022」大会コース

【みなとみらい7kmラン】



【車いすチャレンジ】



オフィシャルパートナー（19社）



横浜サポーター（19社）

株式会社横浜銀行、株式会社JTB、古河電池株式会社、富士通Japan株式会社、株式会社両備システムズ、株式会社ありあけ、フィード・ワン株式会社、株式会社ネオジャパン、NPO法人おれんじハウス、横浜バイクオーター、株式会社キタムラ、資生堂グローバルイノベーションセンター（S/PARK）、フクダ電子株式会社、株式会社城山、プライムケア東京株式会社、フレッシュ・デルモンテ・ジャパン株式会社、株式会社ミツハシ、株式会社日新  
【ジュニアサポーター】よこはまコスモワールド

# 「横浜マラソン2022」収支決算

(2022年1月1日～2022年12月31日)

収入	853,805,405円
支出	853,805,405円
差引	0円

## 【収入】

【単位：円】

	費目	予算	決算	差引	備考
1	参加料金及び協賛金	754,111,200	703,504,210	▲50,606,990	
2	自治体負担金	130,000,000	130,000,000	0	横浜市：100,000,000円 神奈川県：30,000,000円
3	その他	500,000	3,600,616	3,100,616	出展料、銀行利息等
	小計	884,611,200	837,104,826	▲47,506,374	
	前大会繰越金	16,700,579	16,700,579	0	
	合計	901,311,779	853,805,405	▲47,506,374	

## 【支出】

【単位：円】

	費目	予算	決算	差引	備考
1	広報・イベント費	109,385,500	105,999,778	▲3,385,722	ランナー募集関連等
2	安全対策費	350,996,000	349,990,283	▲1,005,717	大会警備等
3	大会運営費	343,851,700	322,064,073	▲21,787,627	会場使用料等
4	システム関係費	35,490,000	35,489,300	▲700	エントリーに係る費用等
5	事務局経費	37,888,000	33,085,498	▲4,802,502	事務局運営費、法人税等
6	予備費	7,000,000	0	▲7,000,000	
	小計	884,611,200	846,628,932	▲37,982,268	
	次大会繰越金	16,700,579	7,176,473	▲9,524,106	
	合計	901,311,779	853,805,405	▲47,506,374	